

バス系統番号に関するこれまでの提言 第1回バス系統ナンバリング検討会資料

交通ジャーナリスト
鈴木文彦

2018/02/01

川崎市交通局への提案（2016年7月）

●提案の経緯

- 川崎市バス事業アドバイザーボード委員としての改善提案

●目的

- 現在「漢字＋数字」で表記されている系統番号は、外国人にとっては理解できず、日本人でも外来者には意味が取りにくい。そこで万国共通で理解できるアルファベットに読み替えることで、系統番号をよりわかりやすくし、2020年東京五輪に向けた外国人客の増加に備える。

川崎市交通局への提案（2016年7月）

●位置づけ（対外的な説明）

- ゼロベースで系統番号を見直すには時間が足りない。また現行の系統番号は長きにわたって使用されており、それなりに定着している。
- したがって、系統番号を変更するのではなく、現行の系統番号の漢字を「多国語表記」する。いわば行先に英語表記を併記するのと同じ考え方で系統番号の漢字にも英字表記を加える。（イメージとしては系統番号の漢字にアルファベットの振り仮名をつける感じ）

表記方法＝系統番号の漢字1文字を英字 2文字に読み替え、これを併記する。

- ◆なぜアルファベット2文字か
 - 1文字では現行の漢字の読み替えに限界がある（重複が避けられない）
 - 3文字では一般的な略称・登録商標等に多用されているため判別しにくい（NPO/YKK/AKBなど）
 - 2文字なら近隣での重複は避けられ、単なる記号として受け取ってもらえる
 - 例えば川越が川崎と同じ「KW」を使ったとしても遠隔地なので大きな問題はない
 - ただし頭が「J」の2文字略称はかなりあるので注意が必要（JR/JT/JAなど）

川	01	川崎駅
KW		KAWASAKI STA.

川崎市交通局への提案（2016年7月）

●読み替えの方法

- 基本的には元の地名（駅名）の読み方を尊重する
- 例えば「杉」はもともと「小杉」なので、漢字そのものの音から「SG」などとするより「KS」などの方が望ましい

●読み替えの例

- 川=KW / 杉=KS / 溝=MZ / 鷺=SG / 城=SJ
- 原=NH / 宮=MY / 生=IK / 登=NB / 柿=KK
- 新=SY

川崎市交通局への提案（2016年7月）

●その後の展開

- 提言後、交通局ではこれに沿ったLED表示器を2017年に試作（その中でドットの関係で「鷺」の字を小さくするとつぶれてしまうなどの課題も発生）
- 周辺地域が同じ方式の系統番号なので（横浜市交通局を除く）周辺他社局とも相談を開始

防長交通への提案（2012年）

●提言の経緯

- 山口市公共交通委員会副委員長として、山口市内の公共交通の利便性向上に向け、市交通政策課・防長交通との定期的意見交換会の中で提案

●目的

- 山口市内のバスにはそもそも系統番号がなく、利用者の判断材料は漢字表記の方向幕のみであったため、外国人旅行者も増えている中で、運行パターンがわかりやすく、案内もしやすい数字による系統番号の新設が望ましい

防長交通への提案（2012年）

● どのような系統番号にするかの議論

- 可能な限り単純化することが必要ではないか
- アルファベットと数字の併用はどうか～アルファベットがついているだけでそれに何らかのイメージがつく（たとえばW21とついでいればW=WESTをイメージしがち）～煩雑化を避け、よりわかりやすくするには数字のみの方がよい
- では数字何桁で表すか～山口の系統数からすると2桁で足りる～しかしただの整理番号としないためには3桁にして100位に意味を持たせた方が望ましい

系統番号の表記方法

- 系統のパターンごとに100番台の数字を変えて設定する
- 100番台 = 新山口駅～湯田温泉・山口市街地を結びさらに北へ伸びる系統 / 300番台 = 新山口駅～山口大学方面を結び市街地に至る系統 / 400番台 = 山口市街地から山口大学を結ぶ系統 / 600番台 = 県庁・バイパス方面を結ぶ系統
- 補助的に10番台が20～の場合県庁に行く（通る）



防長交通への提案（2012年）

●その後の展開

- 2013年4月のダイヤ改正で、基幹路線（新山口駅～山口市内間）20分ヘッドダイヤ化と同時に系統番号を導入
- バスの行先表示のほか主要バス停の表示板、路線図、時刻表等に表記するとともに市の広報等で告知
- 新山口駅を降りた外来者に「湯田温泉へ行くなら100番台」「山口大学に行くなら300番台」といった案内ができるようになったと好評
- 知名度を高めるには時間がかかったがとりあえず定着